KANAZAWA UNIVERSITY

金沢大学が目指すグローバル大学への道

「授業の英語化」の光と影

Jan. 26, 2018

於：東京農工大学（府中キャンパス）
金沢大学副学長（教育担当理事）
柴田正良

話の流れ

1．金沢大学とは？

2．SGUとKUGS

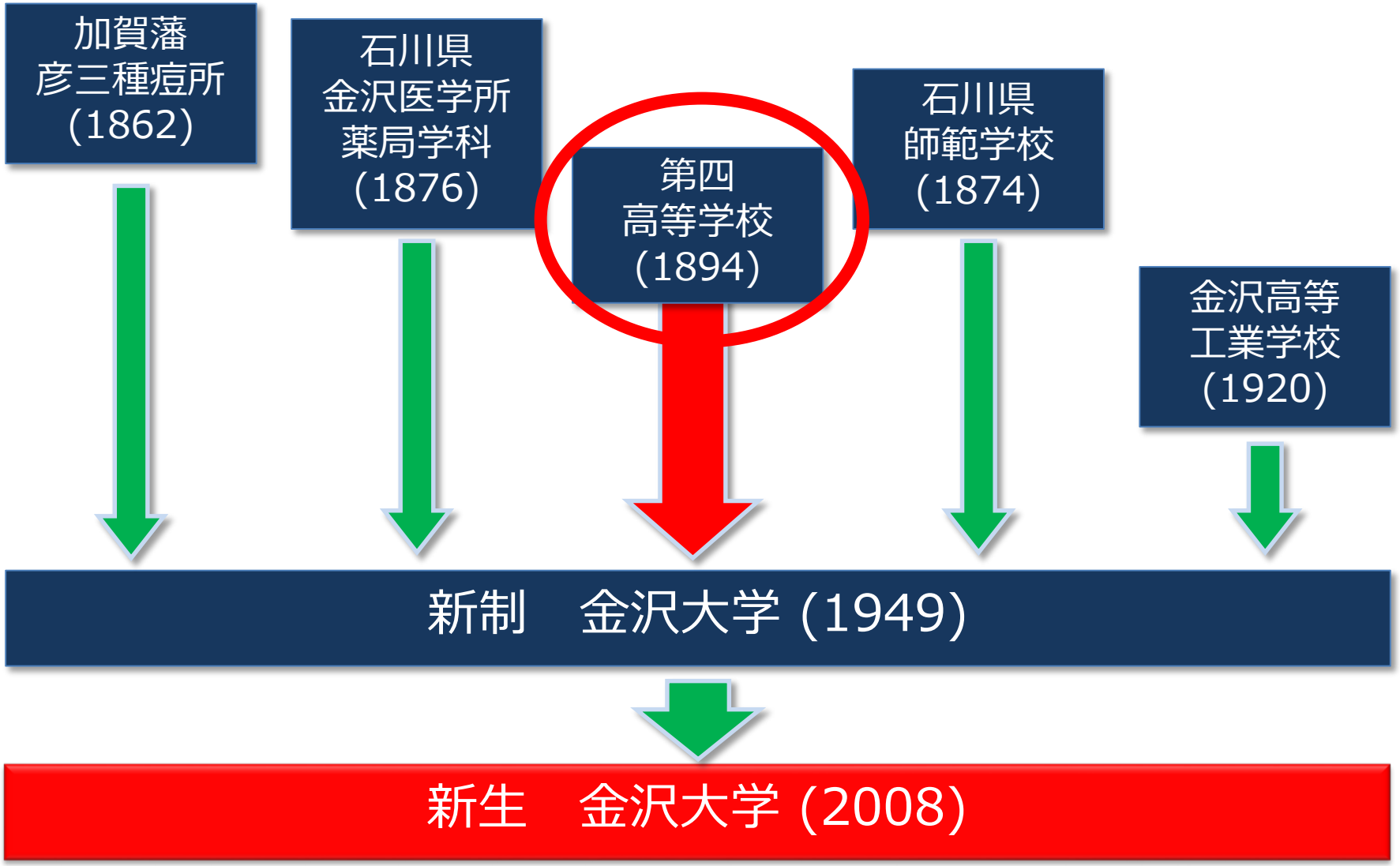
3．何のための「授業の英語化」か？

4．SGUによる英語化支援

5．共通教育（教養教育）の中で

6．専門教育の中で（そして…）

金沢大学の歴史


加賀藩
彦三種痘所
(1862)
石川県
金沢医学所
薬局学科
(1876)
第四
高等学校
(1894)
石川県
師範学校
(1874)
金沢高等
工業学校
(1920)
新制　金沢大学 (1949)
新生　金沢大学 (2008)

3学域17学類（2018年度～）

人間社会学域

- 人文学類
- 法学類
- 経済学類
- 学校教育学類
- 地域創造学類
- 国際学類

理工学域

- 数物科学類
- 物質化学類
- 機械工学類
- フロンティア工学類
- 電子情報通信学類
- 地球社会基盤学類
- 生命理工学類

医薬保健学域

- 医学類
- 薬学類
- 創薬科学類
- 保健学類

金沢大学の基本理念とSGU事業

KANAZAWA UNIVERSITY

金沢大学憲章

基本理念 「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」

教育目標 「専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材育成」

金沢大学の10年後（2023年）の姿

1	独自のグローバル人材育成スタンダード（KUGS）に基づく国際標準の質の高い教育を提供する大学
2	世界で活躍する「金沢大学ブランド」の人材を輩出し，日本のグローバル化を牽引する大学
3	東アジアの地において，世界の高等教育研究ネットワークの中核に位置する大学

大学の国際化・グローバル化の「金沢大学モデル」を確立

金沢大学が目指す将来の姿

KANAZAWA UNIVERSITY

金沢大学の 10 年後の姿

国際社会を生き抜く能力・体力・人間力を涵養する革新的な教育を提供する。

海外の卓越した大学との戦略的な教育研究連携によって，アジア―アメリカ―ヨーロッパにまたがる高等教育研究ネットワークの中核となり，国内外から多様な人材が集積する。

地域や国を問わず知識基盤社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」の人材を育成・輩出する。

10 年後の姿を実現するための 7 つの基本戦略

1. 国際基幹教育院を中心とした，KUGS に基づく金沢大学ブランド教育の実現
2. 国際学類を先導モデルとした学士課程教育の国際化の加速
3. 研究力強化のための教育研究特区の設置と，国際化に対応した大学院教育研究の高度化
4. 国際教育研究ネットワークと金沢大学海外拠点の充実
5. タフツ大学 ELP 金沢サテライトセンターの設置と，英語教育の強化
6. 地域「超」体験プログラムと，SGH との連携による地域のグローバル化の牽引
7. 学長のリーダーシップによる迅速かつ強力なガバナンス改革

金沢大学憲章

↓

グローバル社会で育成すべき人材像を具体化

↓

金沢大学＜グローバル＞スタンダード

KUGS
Kanazawa University "Global" Standard

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし，知識基盤社会の中核的なリーダーとなって，常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける次の能力・体力・人間力を備えた人材を育成する。

1.自己の立ち位置を知る
2.自己を知り，自己を鍛える
3.考え・価値観を表現する
4.世界とつながる
5.未来の課題に取り組む

共通教育の抜本的改革

KANAZAWA UNIVERSITY

H27年度まで

H28年度から

約300科目の共通教育科目 → 30のGS科目に集約

ＧＳ科目一覧

1.自己の立ち位置を知る	2.自己を知り、自己を鍛える	3.考え・価値観を表現する	4.世界とつながる	5.未来の課題に取り組む
現代世界への歴史学的アプローチ	哲学(自我論)	プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）	金沢・能登と世界の地域文化	科学技術と科学方法論
グローバル時代の政治経済学	パーソナリティ心理学	クリティカル・シンキング	日本史・日本文化	統計学から未来を見る
グローバル時代の社会学	グローバル時代の文学	価値と情動の認知科学	異文化間コミュニケーション	情報の科学
ケーススタディによる応用倫理学	健康科学	論理学から見る世界／数学的発想法	異文化体験	環境学とESD
地球生物圏と人間	細胞・分子生物学	芸術と自己表現	国際社会とボランティア	生活と社会保障
物理の世界／化学の世界	エクササイズ＆スポーツ 実技	スポーツ科学	グローバル社会と地域の課題	人権・ジェンダー論

Goals for 2023　数字で見る！金沢大学の目標

英語による授業

大学院課程

25.7%　100%

学士課程

6.4%　50%

(H28)

卒業時の学生の語学レベル

TOEIC 760点　大学院課程 85%

TOEFL-iBT 80点　学士課程 75%

日本人学生に占める留学経験者
（単位取得を伴うもの）

502 (H28)
（2.5%）

870人
（8.7%）

※日本人学生の総数を1万人と設定

卒業までに留学、ボランティア、インターンシップ等海外での学修経験を持つ学生

327 (H28)
(18.1%)

900人
(50.0%)

※毎年度の卒業生に占める人数と割合

英語化マニフェスト2015（教職員篇）～何のための「授業の英語化」か？

授業の英語化は、現代世界の「共通言語」になりつつある英語を、
学生に深く身につけさせ、自在に使いこなせるようにさせるために
必要である。

その能力は、ツールとして、鋭い国際的センスとタフな人間力を備えた
「グローバル人材」となるために必要である。

そのような人材であることは、学生個人の夢の実現と、
日本と世界が直面する難問解決のために必要である。

その難問解決は、人類の今後の運命を決定する。

英語化マニフェスト2016（学生篇）～何のための「授業の英語化」か？

KANAZAWA UNIVERSITY

言葉なんかおぼえるんじゃなかった
言葉のない世界
意味が意味にならない世界に生きてたら
どんなによかったか

------田村隆一『言葉のない世界』(1962)「帰途」から----

そのように詩人は嘆く。「日本語とほんのすこしの外国語をおぼえたおかげで」、他者と共につくる意味の世界へと帰ってこざるをえないから、というのがその嘆きだ。しかし、詩人のこの溜息は彼の本心ではあるまい。なぜなら、言葉が私たちを否応なく繋ぎとめる世界とは、私たちが沈黙の獣ではなく、人として生きる世界だからだ。

研究者であれ、企業人であれ、公務員であれ、みんなが未来の大空を翔るには、強靭な英語の翼が必要だ。

しかし、知るべきは、「サバイバルの英語」や、「正確な英語」だけではない。
さらに、英語文化の歴史と広がりが与えてくれる「深い英語」の世界を、堪能できるようになろう。

英語の世界に沁みだした見知らぬ人々の豊かな心と出会うために。

英語化マニフェスト2015（教職員篇）～何のための「授業の英語化」か？～

KANAZAWA UNIVERSITY

本文 pp.4-6

授業のスタイル

100%　　100%

「完全英語化」･･･
授業の説明及び教材等のすべてにおいて100%英語が用いられている。

「部分的英語化」･･･
授業の説明及び教材等のそれぞれに関して、かなりの割合で英語が用いられている。

「説明やディスカッションを少しでも英語で」･･･
英語の発話量はそう多くはないが、授業内容として有益かつ効果的な部分をオーラル英語によって説明･議論する。

「教材等を少しでも英語で」･･･
教材等のすべてではないが、テキストや講義資料、試験問題などに関して、有益かつ効果的な部分が英語化されている。

0%　　0%

授業の説明　オーラルコミュニケ-ション

講義資料　教材

英語化マニフェスト2015（教職員篇）～何のための「授業の英語化」か？～

KANAZAWA UNIVERSITY

本文 pp.9-10

英語化の方向性

（1）SGU調書で約束した数値目標を達成することに全力を挙げるが、**数値そのものに　過度にこだわって学生の理解をおろそかにしない。**

（2）「英語化」の実施に際しては、**all or nothing の態度を取らず**に、「教材等を少しでも英語で」あるいは「説明を少しでも英語で」行うことによって、「授業の英語化」の裾野をできるだけ拡げる。**全ての教員がこのような意味で「授業の英語化」に参加する。**

（3）本学においては、「掛け値なしに100%英語で行われる授業」が決して理想的なのではない。むしろ、主題領域、学生、学年等に関してきめ細かく配慮された英語化がそれぞれの授業に関して行われるべきであり、その際、**日本語と英語の両方が適切に組み合わされた「ハイブリッド型」授業**が求められる。

（4）このハイブリッド方式の英語化を様々なレベルで全学的に推し進めること、これが、キャンパス内のいたるところで英語が用いられる環境を自然に創出する。その時こそ本学は、日本語と英語を縦横に駆使した多彩な知の織物、**本学独自のバイリンガル大学（バイリンガルキャンパス）**となるだろう。

英語による授業の拡大に向けて（教員への支援）

教員の「英語による教授力」強化

- ◆ スーパーグローバルELPセンター(タフツ大学との連携）における教員対象英語プログラム
- ◆ 国際基幹教育院スキルアップセンターによるFD活動
  - ・British Councilと連携したFD研修
  - ・Teacher Training Manualの整備（現在整備中）

「英語による教授力」に優れた教員の確保

- ◆ 教員公募の際に、英語による授業担当を原則必須化
- ◆ 英語による授業実施に対するインセンティブ制度の整備
- ◆ 外国人教員採用に適した人事制度・採用後の支援体制の整備

英語による授業の拡大に向けて（学生への支援）

英語教育の充実

- ◆ 共通教育英語科目を大幅改革
- ◆ 平成28年度入学生からTOEIC受験義務化（平成30年度から複数回受験）
- ◆ 個々の学生に対応する英語学習アドバイザーの導入

海外派遣の推進

- ◆ 派遣プログラムの拡充、学内奨学金等の見直し
  H25　174人 →H28　502人（約3倍に増加）
- ◆ ELPセンターによる留学前プログラムの実施

キャンパスのグローバル化推進

- ◆ 混住型学生留学生宿舎「先魁」に加え、「北溟」新築（H29.4）
- ◆ 附属図書館に国際交流スタジオを整備（H28.3）

→ 英語学習の**継続的強化**をはかる

KU-SGU Student Staffの発足
（学生による学生の支援）

◆ SGU推進のため、学生スタッフ組織「KU-SGU　Student Staff」が発足
◆ 15名の学生が所属（学士１年生から博士後期課程まで、留学生も参加）
◆ 「学生の立場からの大学全体の意識改革」を目標とする

【主な活動】
- 主に１年生を対象に「留学制度説明会」を開催。毎年100名近くの学生が参加。
- 「グローバルウィーク～君のキャリアアップだけを考えた国際交流フェスタ～」を開催
  1週間で400名を超える学生がイベントに参加
- 留学経験者が個別留学相談を行う 「留学なんでも相談かふぇ」を開催

共通教育（教養教育）科目における取組

1学年　約1,800人

① 英語教育の充実 → 英語科目の再編

② 英語学習者への
インセンティブ → 外部試験による
単位・成績認定

③ 英語使用機会の増加 → 通常授業の英語化

↓

各施策の詳細

①英語教育の充実

旧来の英語授業を以下の2コースに再編し，全学生（8単位）必修化

◆「TOEIC準備」コース（Ⅰ～Ⅳ，総計4単位）

リスニング・リーディング能力向上

習熟度別クラス（センター試験得点の利用：クラス指定）

- ✓ TOEIC-IP受験必須化（TOEIC準備Ⅳで受験）
- ✓ 厳格な成績評価
  - 全学共通試験/ TOEIC-IPの得点が8割

◆「EAP」コース（Ⅰ～Ⅳ，総計4単位）

EAP: English for Academic Purposes

大学での学修に必要な英語力育成

- ✓ 少人数制（1クラス20～30人・クラス指定）
- ✓ 授業は英語で
- ✓ ルーブリック：精緻な成績評価

KANAZAWA UNIVERSITY

②英語学習者へのインセンティブ

自主的に外部試験(TOEIC/TOEFL等)を受験した学生
➔旧来通りの単位認定制度（TOEIC≧600点で2単位等）

＋

（新）高得点者には「S」又は「A」で英語最大4単位認定

S ： TOEIC 860点以上／TOEFL 100点以上
A ： TOEIC 730点以上／TOEFL 80点以上 等

認定学生数

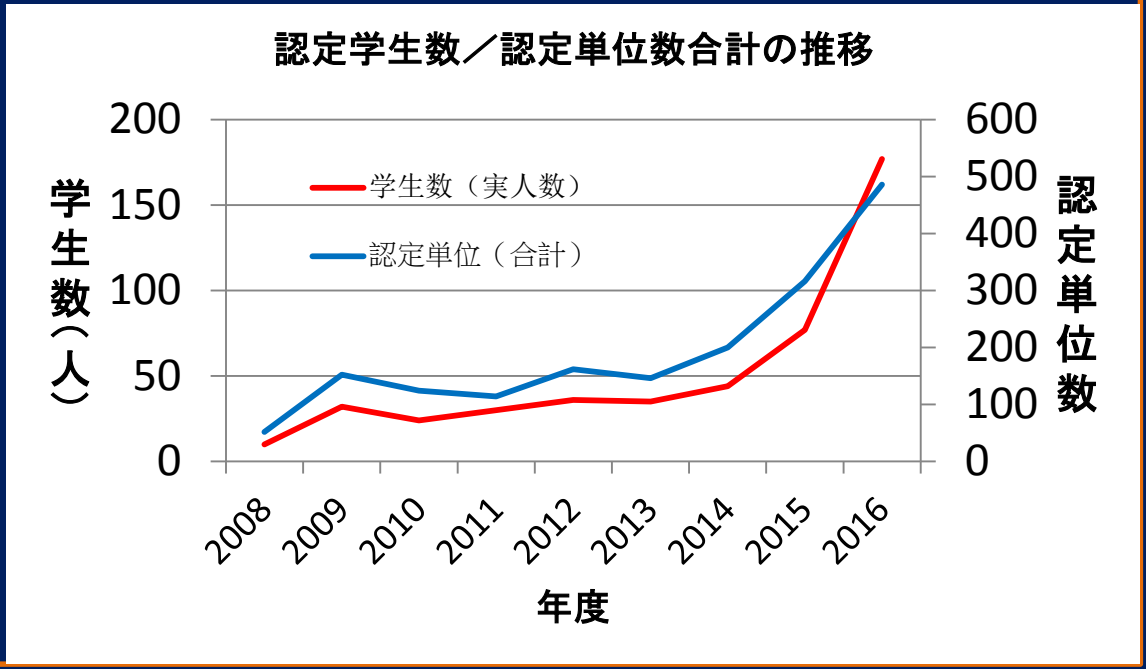
35人➔177人

2013→2016年

認定単位数合計

146 ➔486単位

2013→2016年



③英語使用機会の増加

共通教育科目の本体となる”GS科目”に、「英語クラス」を設定

◆ 方針

- 英語化で学生の理解をおろそかにしない
  ➔All or Nothing ではなく、少しでも英語化＆ハイブリッド型

◆ 開講方法・手立て

- ✓ 同一科目を日本語と英語の両クラスで開講
  ➔学生が日本語クラスと英語クラスを選択できる。
- ✓ 授業で要求される英語レベルをシラバスに記載

◆ 数値目標（GS科目英語クラスの割合）

- 2016: 試行 ➔ 2017: 25% ➔ 2020: 50%

・・・実態は 2017: 約11%

専門教育科目における取組

◆全学的検討組織（**授業科目英語化WG**）の立ち上げ（H26~）

➔教育改革を担当する学長補佐のもと，SGU企画・推進室や学域・学類とも連携の上，全学的観点から取組を推進する。

◆**専門教育課程における英語教育の充実**

KUGSに基づく基幹教育科目として「学域GS言語科目」の開設

※GS言語科目（TOEIC準備，EAP）の履修を踏まえた2つの学修成果

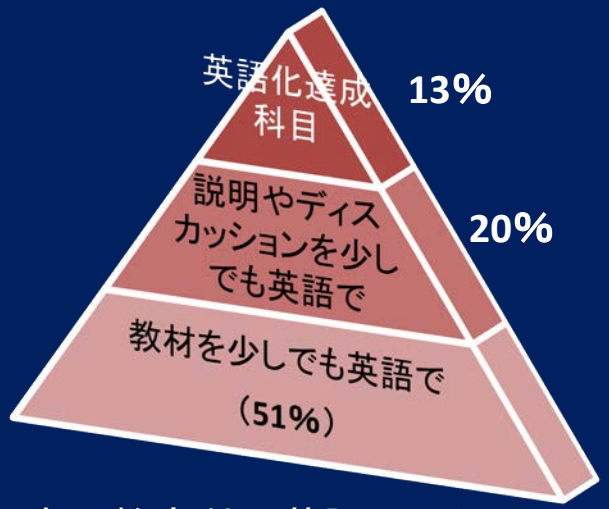
- ➔ **①各学域に共通する専門的内容を英語で学び理解する**
- ➔ **②留学等海外体験に必要な英語力を身に付ける**

授業科目英語化WGの活動

◆平成35年度のSGU目標値達成に向けての
ロードマップ（行程表・設計図）策定（※データ資料編参照）

どのように英語化を推進するか。
✓ どのような科目（群）を英語化するか。
✓ 3ポリシーとの関連を意識して検討を行う！

➔英語化100%の科目だけ検討するのではなく，
英語化の裾野を広げる（All or Nothingを脱して）。



（専門教育科目英語化見込 H29）

『英語化マニフェスト』に沿い，科目を類型化。
年次ごとの目標・計画を設定し，教育効果を検証しつつ，
段階的な導入を進める。（英語化予備群）

英語化の光と影

日本語が世界の「共通言語」であったなら、授業の英語化は必要なかったかもしれない。
しかし、それは不可能に近い。

われわれの理想は、自らの言語と文化をしっかりと保持しながら、同時に、その時々の「共通言語」を自家薬籠中のものとして、世界の新たな価値の創造に参加し、自らの独自性を世界に発信し続けることである。

そのような存在である以外に、我が国の未来はないだろう。
北欧スカンジナビアの国々のように・・・

しかし、大学生を含む若者は、現状に満足し、内向きなまま、外の世界に出ていこうとしない。やがて、戦後の先人たちの苦労の果実は、すべて食べ尽くされてしまうというのに。
われわれは、彼らの志を鼓舞するところから始めなければならないのか？

ご清聴ありがとうございました

金沢大学はこれからも
バイリンガル・キャンパスの構築を通して
個性豊かな
真のグローバル大学を目指します

〈作成協力〉
松村　典彦（スーパーグローバル大学企画・推進室）
佐藤　剛　（学生部学務課教務係）
中西　良彰（学生部基幹教育支援課基幹教育学務係）
小村　麻子（学生部学務課総務係）

以下、データ資料編

金沢大学スーパーグローバルELPセンターの設置と教員英語研修プログラム

平成27年3月にキャンパス内に金沢大学スーパーグローバルELPセンターを設置
タフツ大学から派遣された教員が常駐し、教員、学生、職員対象の英語研修を担当

教員：ｱｶﾃﾞﾐｯｸ英語研修

- 教員向け・学生向けアカデミック英語全般
- 英語での教授法，カリキュラム及びコース開発法

受講者数

2015Spring	22名
2015Autumn	42名
2016Spring	27名
2016Autumn	21名
2017Spring	22名
2017Autumn	27名
計	161名

ELP: English Language Programs

授業科目の英語化設計図

【機械工学類・機械システムコース，知能機械コース】

英語化の方策

【総論】
・どのように英語化を推進するか
・どのような科目群で英語化するか
・ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，カリキュラム・マップ，カリキュラム・ツリーとの関連はどうなっているか　【重要】
など。

※ 別紙に作成してください。

機械工学類最終学生1 ← 機械工学類最終学生2 ← 新学類開始　機械工学類最終学生3 ← 機械工学類最終学生4 ← 年度末機械工学類廃

授業のスタイル	英語化計画							
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
	7%	10%	→	25%	→	→	→	50%
(1)(2) 完全英語化(100%)・ 部分的英語化(80%以上)	材料力学Ⅰ及び演習 振動工学Ⅰ及び演習 流れ学Ⅰ及び演習 熱力学Ⅰ及び演習 Field Exercise for Technical Intern B 卒業研究 機械工学輪講 (枝番対応，科目番号により10科目，9.7%)	材料力学Ⅰ及び演習 振動工学Ⅰ及び演習 流れ学Ⅰ及び演習 熱力学Ⅰ及び演習 Field Exercise for Technical Intern B 卒業研究 機械工学輪講 (枝番対応)	材料力学Ⅰ及び演習 振動工学Ⅰ及び演習 流れ学Ⅰ及び演習 熱力学Ⅰ及び演習 Field Exercise for Technical Intern B 卒業研究 機械工学輪講 (枝番対応)					
(3) 説明やディスカッションを少しでも英語化			専門科目Ⅰ，専門科目Ⅱの応用的科目 専門科目Ⅰ，専門科目Ⅱの基礎的科目 専門基礎科目Ⅰ 専門基礎科目Ⅱ 学域共通科目	専門科目Ⅰ，専門科目Ⅱの応用的科目 専門科目Ⅰ，専門科目Ⅱの基礎的科目 専門基礎科目Ⅰ 専門基礎科目Ⅱ 学域共通科目	専門科目Ⅰ 専門科目Ⅱ 専門基礎科目Ⅰ 専門基礎科目Ⅱ 学域共通科目			
(4) 教材等を少しでも英語で		専門科目Ⅰ，専門科目Ⅱの応用的科目 専門科目Ⅰ，専門科目Ⅱの基礎的科目 専門基礎科目Ⅰ 専門基礎科目Ⅱ 共通科目						
(5) すべて日本語	実践基礎科目 専門総合科目			実践基礎科目 専門総合科目				実践基礎科目 専門総合科目

①講義アウトライン(英語)→準備
②専門用語の日本語・英語の併記→実行
③演習問題の英語化→準備
④自主学習の英語化の促進→課題英語化の準

①配布，一部科目で英語で説明
②実行
③一部科目で実行

①配布，一部科目で英語で説明
②実行
③一部科目で実行

①配布，全科目で英語で説明
②実行
③一部科目で実行
④課題英語化の実行
⑤全科目で実行

全科目英語化標準スタイルの完成後，学生の英語能力および専門科目の修得度合いを注意深く評価した上で，さらなる英語化を応用科目を中心にして段階的に

※ 計画は，科目区分やコース，個別の授業科目名など，適宜学類の計画に応じた単位で記載してください。
※ 必要に応じて「英語化マニフェスト2015(教職員篇)」を参照して作成してください。 http://sgu.adm.kanazawa-u.ac.jp/kusgu/detail.html
※ 「日本語を使用すべき授業科目」(第4回「授業科目英語化に関するWG」(平成27年12月21日ガイドライン承認))も(3)から(5)のいずれかに記載してください。

KANAZAWA UNIVERSITY

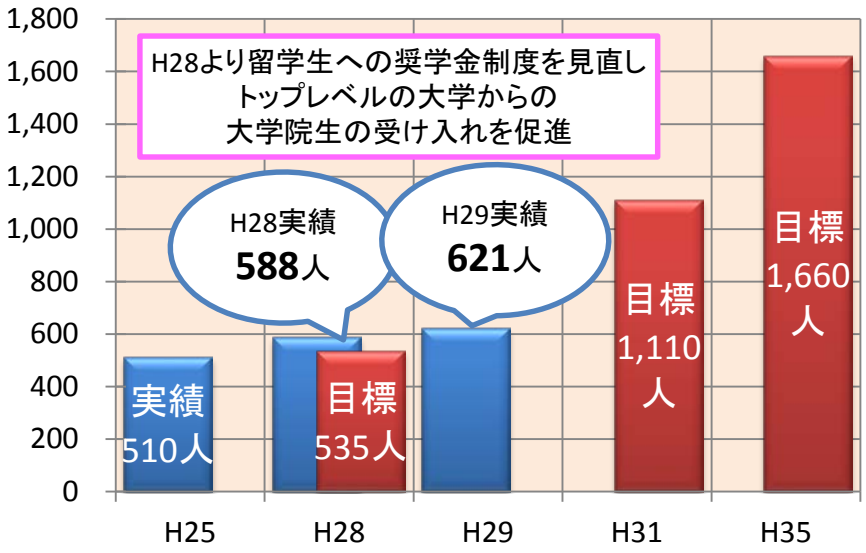
現状　英語使用機会の増加の課題

	履修登録／開講計画	授業	成績
学生	• 英語クラスを希望する学生もいる（少数） • 多くは日本語クラス希望 ➔英語クラスは履修者”0”も ※現在、英語クラス履修に特別なインセンティブはない ※但し，英語クラス履修者も漸増傾向 • 日本語クラスの定員に入れずやむを得ず英語クラスへ行く学生も ※定員超過の場合抽選するため	• 希望して英語クラスを履修しているものとそうでないもので二極化 • 宿題の内容すら理解できない（学生もいたらしい） • 逆に「先生の英語が下手」も	• 「日本語クラスならもっと良い成績が取れた」 • 理解度の低下 （日本語でも分からないのに英語では…）
教員	• 英語クラス開講を回避する傾向 　• 学生の脱落防止 　• グループワーク等のアクティブ・ラーニング型授業を、より重視 　• 体育：事故回避のため • ネイティブ教員で英語クラスが多いと”楽してる”との見方も ※履修者数が少ないため	• 学生の英語力に応じて和英の対応（スライド，テキスト，配布資料，口頭説明等）が必要 • 英語クラスでは，学生が理解するための時間を長めにとる必要がある。	• 日本語クラスと同じ成績基準とすることは困難（英語クラスは成績が良くない傾向）

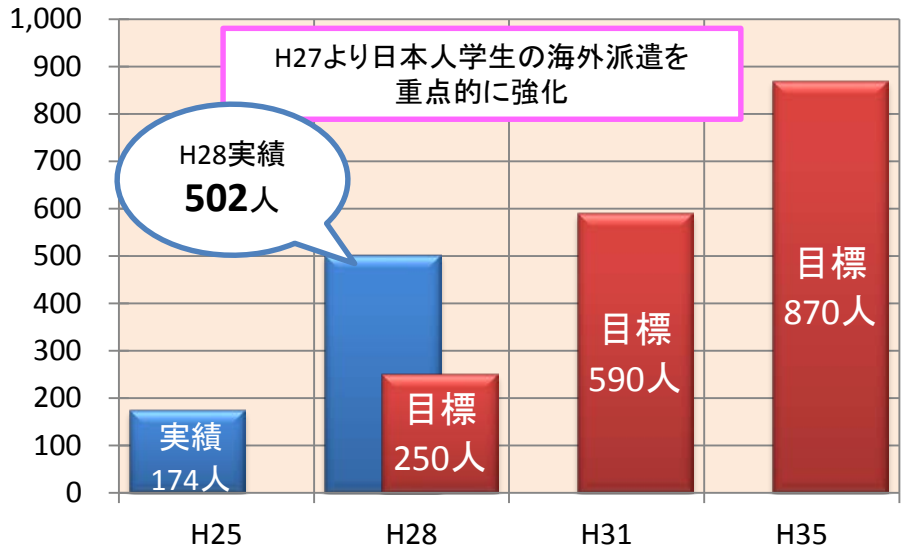
成果指標の達成状況　留学生受入・日本人学生海外派遣

KANAZAWA UNIVERSITY

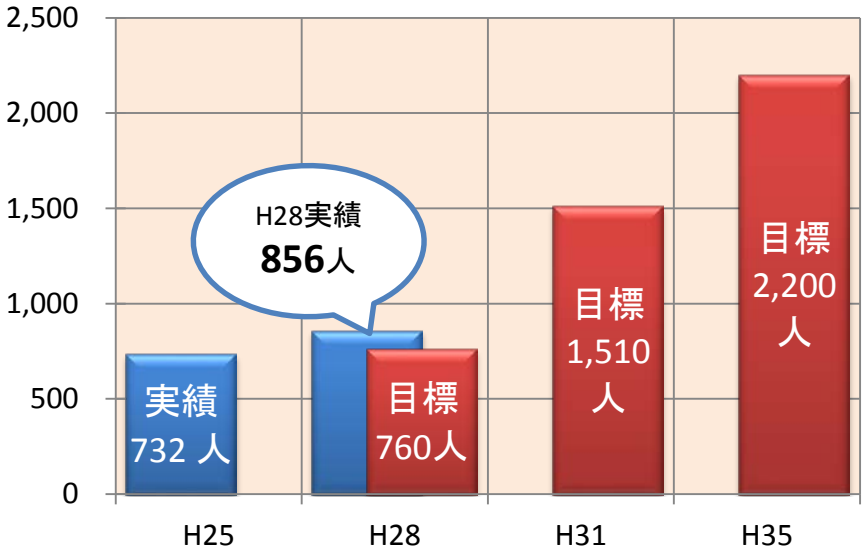
外国人留学生数（5.1現在）



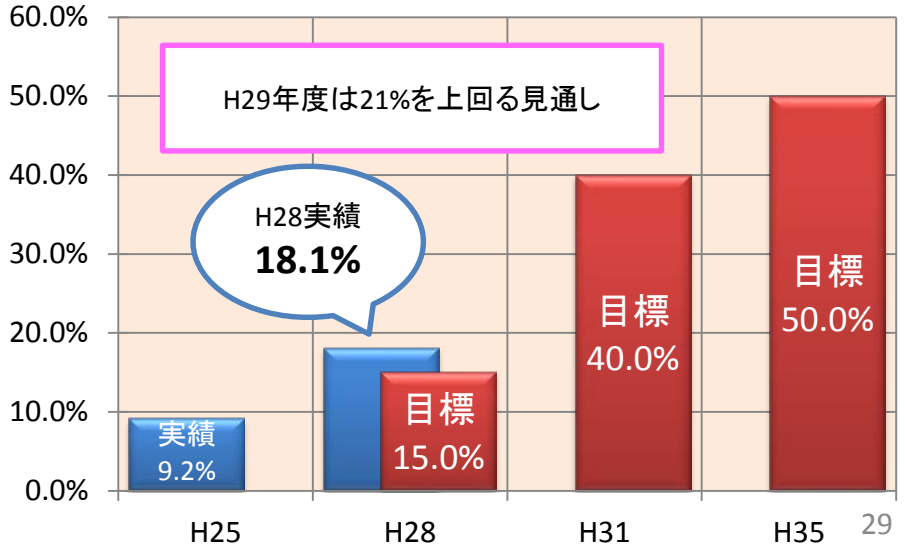
派遣日本人学生数



外国人留学生数（通年）



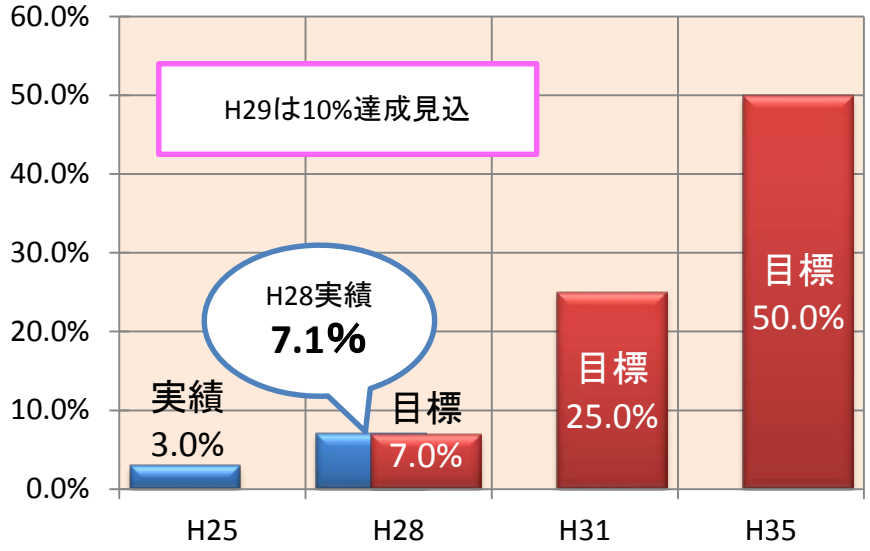
海外経験を有する学生の割合



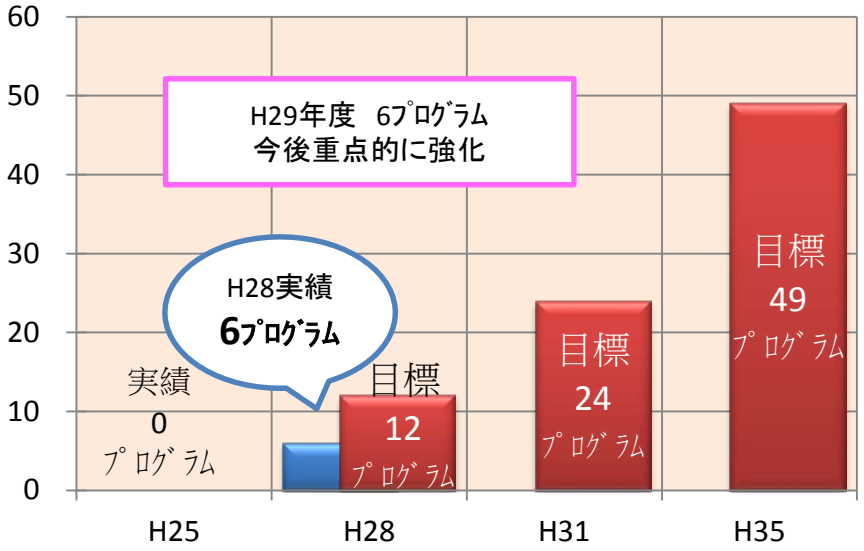
成果指標の達成状況　授業科目の英語化等

KANAZAWA UNIVERSITY

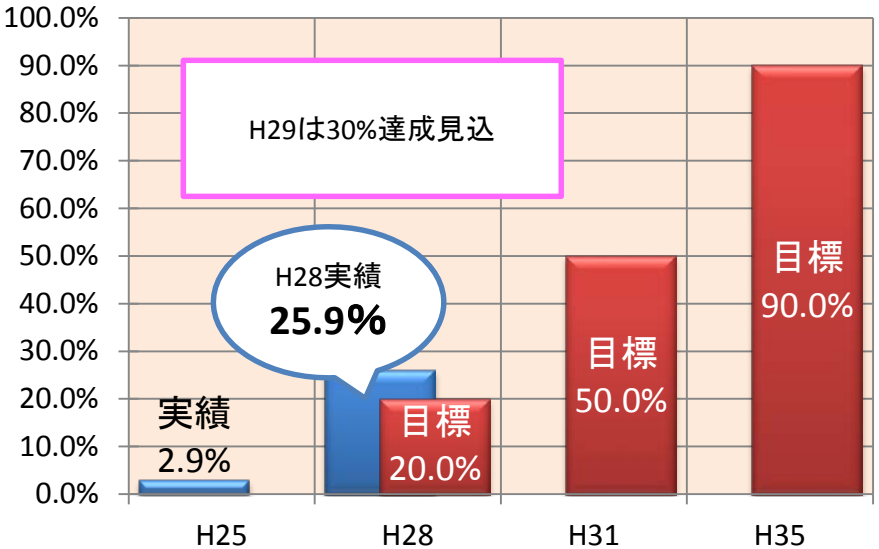
外国語による授業科目（学士）



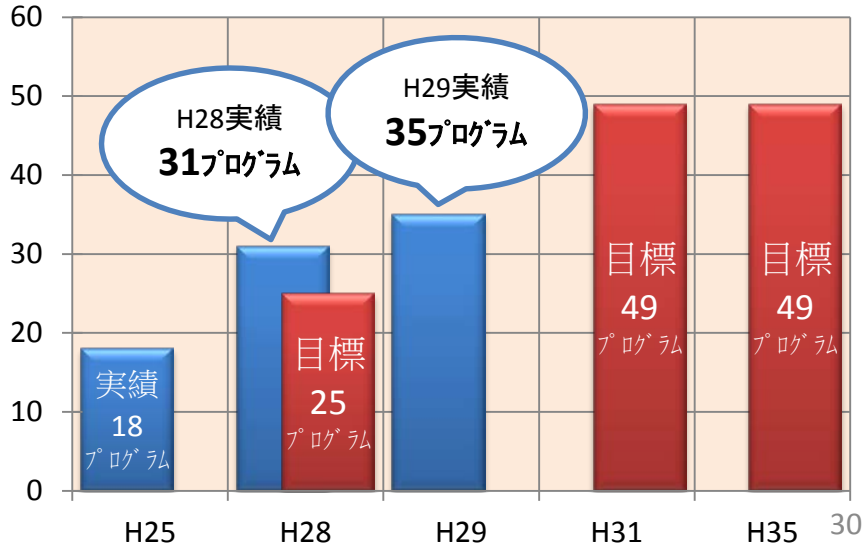
外国語のみで卒業できるプログラム（学士）



外国語による授業科目（大学院）



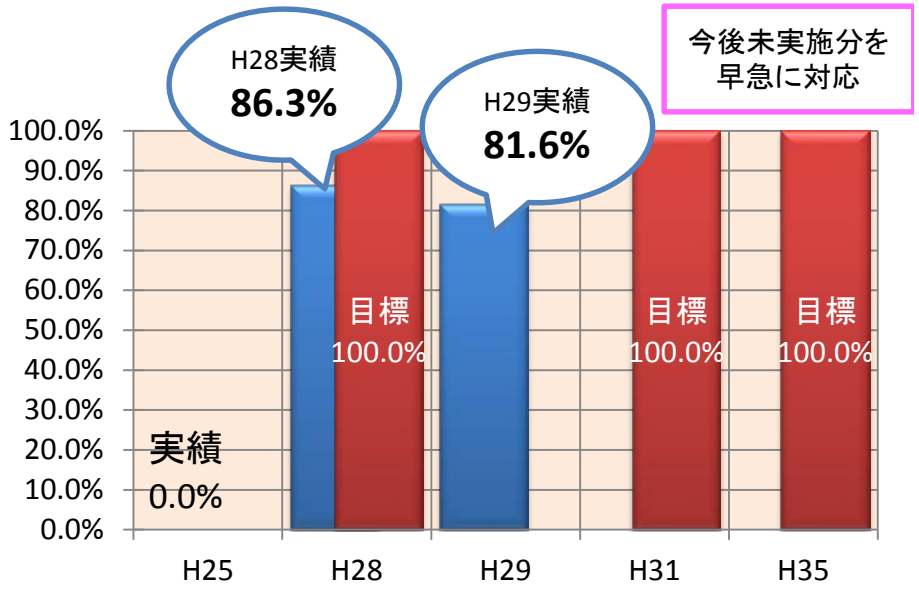
外国語のみで卒業できるプログラム（大学院）



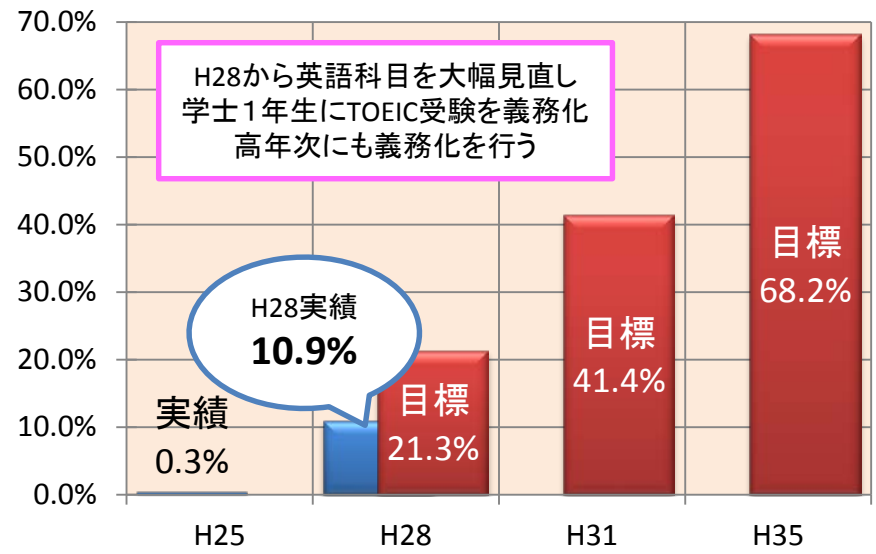
成果指標の達成状況　教育のグローバル化

KANAZAWA UNIVERSITY

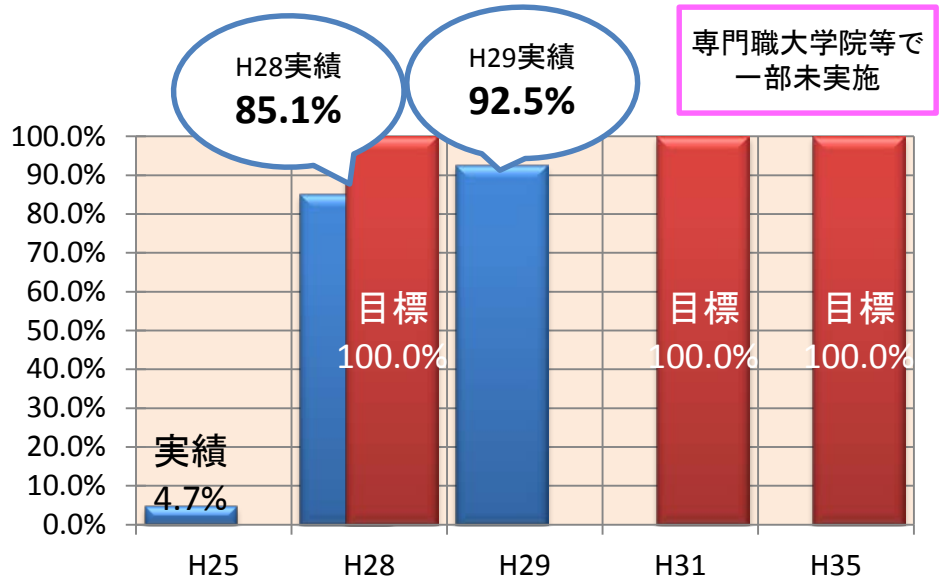
ナンバリング実施授業



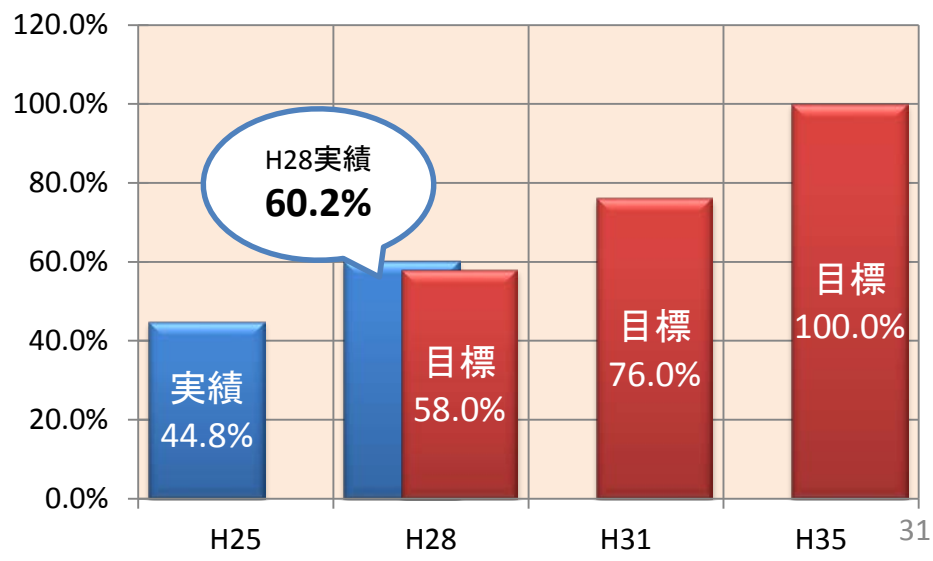
外国語力基準を満たす学生



シラバスの英語化



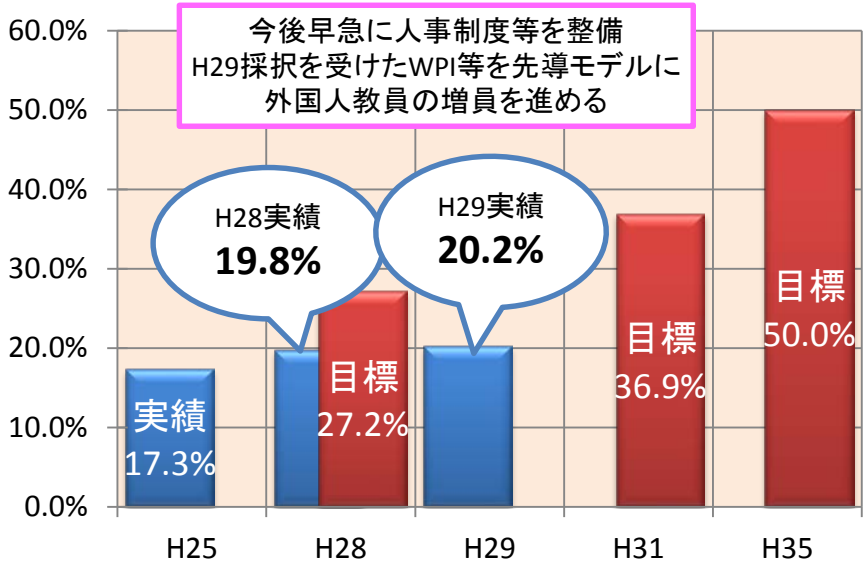
学生による授業評価実施科目



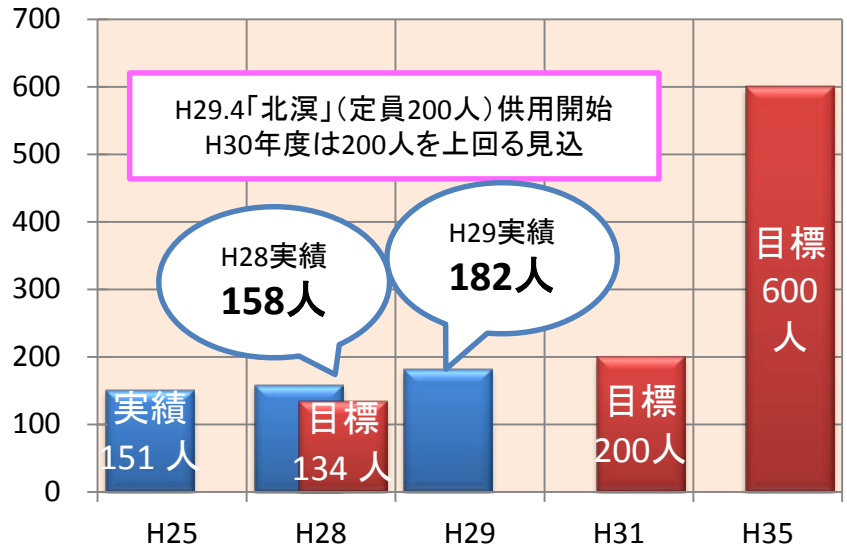
成果指標の達成状況　キャンパス環境のグローバル化

KANAZAWA UNIVERSITY

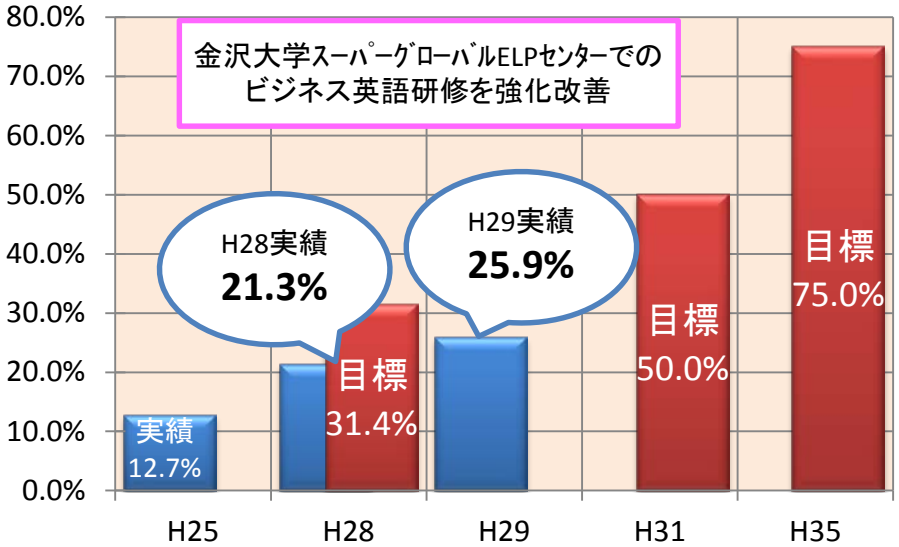
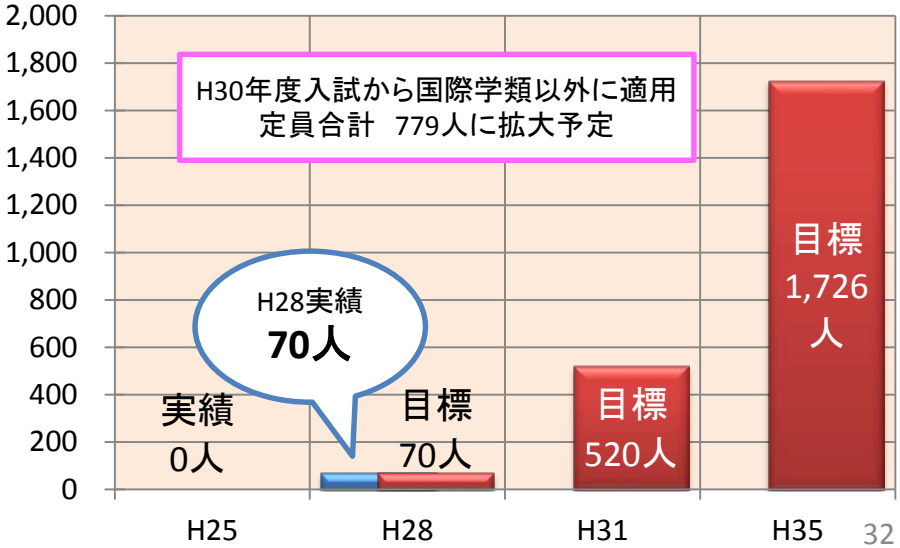
外国人教員等割合



混住型学生宿舎に入居する留学生数



外国語力基準を満たす職員



外部試験の学士課程入試への活用